



平成22年12月17日

「低線量放射線環境安全・安心工学の研究教育の推進」 (文科省特別教育研究経費事業) 中間評価の結果公表

＜概要＞ 岡山大学「低線量放射線環境安全・安心工学の研究教育の推進」(2008年度から5カ年計画)が今年度3年目となり、朽山修氏(東北大学名誉教授、原子力安全研究協会処分システム安全研究所長)、北山一美氏(原子力発電環境整備機構技術顧問)、Ian McKinley氏(スイスの放射性廃棄物処分の実施主体であるNAGRA元国際部長)の3名の外部評価委員による中間評価を受け、低レベル放射性廃棄物の安全・安心な処分に向けて世界的に通用し、且つ、地元密着・異分野融合型の研究教育体制を早期に確立することが要望されました。特に、日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターにおける施設解体と廃棄物の処分については、同センターと協力しながら岡山大学がこの種の問題を解決する創造的・実践的人材を育成することが強く望まれました。

低炭素社会の実現に向けて、原子力の利用は避けて通ることができません。利用に際しては様々な放射性廃棄物が必然的に発生し、その安全・安心な処分は社会的な問題となっています。低レベル放射性物質は、医療・工業用等で身近に接する機会も多くあります。何より地上の生物は全て、宇宙および地中から放射線を浴び続けています。低レベル放射線の影響評価は、世界的にも研究教育拠点がなく、広範な研究と知識普及のための教育施設の創設が望まれています。

岡山県北部には日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターがあり、低レベル放射性物質の処分問題を抱えています。施設を安全・安心に運営することが、鏡野町を中心とした地域の将来展望を描く上では、最重要課題となっています。一方、同地域に隣接する三朝地域のラドン温泉を利用する岡山大学病院三朝医療センターと同大学院保健学研究科では、低線量放射線が生体に及ぼす影響を研究しており、有益な治療効果があることが示されています。この分野に関して、岡山大学は世界的にも屈指の成果を挙げており、低線量放射線の利活用において安全・安心を担保する根拠にもなっています。

低レベル放射性物質と人間活動との共存に関する研究は、人形峠等のフィールドを近くに持ち、既に多くのデータ収集と研究を続けている岡山大学でしかなし得ない研究です。文科省特別教育研究経費事業である「低線量放射線環境安全・安心工学の研究教育の推進」プロジェクトは2008年にスタートしており、今後、更に世界的にも模範となる先進的な大学院一貫教育を担うべく、教育研究体制の整備を進めていく予定です。

なお、本プロジェクトを担う1人である大学院環境学研究科教授・市川康明は、英国政府 EPSRC (Engineering and Physical Sciences Research Council; 学術評議会工学物理科学部門)に依頼されて、英国における放射性廃棄物処分プロジェクトのピアレビューに参画することになっています。

＜お問い合わせ＞
岡山大学大学院環境学研究科・市川康明
TEL. 086-251-8152
E-mail: yiyi08@cc.okayama-u.ac.jp